

神さまはおられるの？

(創世記17・1)

一、神さまはおられるの？

神さまはほんとうにおられるのでしょうか。「おられると思えば、おられる！おられると思わなければ、おられない！」と、そのようなお方でしょうか。「おられると思えば、おられる」では、私たちが思うことになって、おられたり、おられないことになってしまします。そういう神さまでは困ります。神さまがおられるか、おられないかが、人間の思うことによって変わってしまう。あるいは、神さまが厳しいお方であるか、やさしいお方であるかも、神さまを信じる人の考えによって決まってしまう。これでは、困ります。こういう神々を信じることを、聖書は「偶像礼拝」と語っています。では、聖書が語る、まことの神さまはどのようなお方なのでしょうか。

二、この人は？

さっそくですが、この人はだれでしょうか。何をしているのでしょうか。



この人の名前はアブラハムです。元の名前、すなわち両親から付けられた名前はアブラム（「高められた

父」の意味)です。アブラハムは神さまによって付けられた名前です。「多くの国民の父」という意味があります(↓創世記17・4〜5)。

さて、アブラハムさんは何をしていたのでしょうか。空を見ているのです。昼ではありません。夜です。ということは、空の星を見ているのでしょうか。じつは、天地を創られた神さまを見ている。「へー？ 神さまって見えるんですか？」「いいえ、空を見上げてても、神さまは見えません。」では、どうやって神さまを見ているのでしょうか。神さまは、目で見ることができません。心の中に思い浮かべることができません。ですが、私たちが「人が造ったのではない、ほんとうの神さま！」と呼びかけ、神さまが「この人に語りかけよう」と思われますと、神さまとお話することができまます。

神さまはアブラハムに語りかけられました。アブラハムは自分に語られたお方が、天と地を創られたおひとりの神さまだと信じて、神さまにお従いしました。それは、アブラハムさんがメソポタミアのウルという場所に住んでいたときのことです。地図を見てください。今、この場所はどこに国にあるでしょうか。イラクです。アブラハムさんは自分に語りかけられた神さまを、ただおひとりのほんとうの神さまだと信じて、お父さんを説得し、みんなにもお話をし、勇気を出して出発しました。ところが、ハランという町まで来ると、お父さんは「わしは先に行くのがいやじゃ」と言ったかどうか、聖書に書いてないのですが、おそらくそのようなことを言っていて、ハランに留まってしまいました。アブラハムさんは、自分に語られた神さまの言葉「わたしが示す地に行きなさい。あなたの子孫は増え、祝福される」を信じて、お父さんをハランに残して出発しました。この時、アブラハムさんは75歳でした。ところが、何年たってもあとつぎが生まれません。息子が生まれなければ「あなたの子孫は増え、祝福される」という神さまの祝福が実現されません。アブラハムさんはだんだんとあせってきました。あきらめる気持ちも大きくなってきました。「私は神さまのお言葉を信じたのに、むだだったのか」と。その時、神さまがアブラハムに現れて語られました。それが、きょうの御言葉、創世記17章1節です。

「アブラムが九十九歳になったときわたしは全能の神である。あなたはわたしの前を歩み、全き者であれ。」アブラハムさんは、99歳のおじいさんになってしまいました。

三、神さまはどこに？

さて、天と地を創られた神さまは、どこにおられるのでしょうか。私たちの

分らないところにおられます。ですから、私たちが近づこうと思っても、できません。ですが、神さまの側から近づいてくださるなら、お会いすることができます。ということは、アブラハムさんは自分で神さまを見つけたのではなく、自分に現れてくださった神さまを畏れ敬い、また語られた言葉を信じてお従いしました。これが、信仰です。では、神さまはアブラハムさんに、どのような方法で語られたのでしょうか。具体的にはどのように語られたのか、聖書には書かれていません。おそらく、思いの中に語られました。思いの中に、「お前は今の生活を続けていかまわらないのか。わたしが示すところに行きなさい」という思いが迫って来たのだと思います。

四、イエス・キリスト

まことの神さまは天と地を創られたお方です。神さまは、神の子イエス・キリストを遣わされました。おどろくことに、天地を創られた神さまが人となつて生まれられたのです。神さまは、この方によって当時の人々に語られ、また時代を超えて私たちに語られています。この方は、私たち人間を不幸にしている原因である「罪」のために、十字架で死んでくださいました。なぜなら、「罪」の問題が解決されなければ、だれ一人神の国に入れないからです。